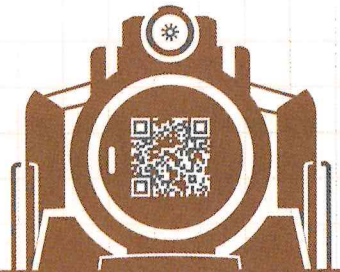


# D51形蒸気機関車 895号機

アクセス JR王寺駅・近鉄王寺駅・近鉄新王寺駅から徒歩10分



▲舟戸児童公園に静態保存されるD51形蒸気機関車895号機  
公式側前方から見た全景写真です。煙突部分に集煙装置、蒸気溜がある流線形カパーの後ろに重油併燃装置の重油タンクが装備されたまま保存されています。

## D51形蒸気機関車895号機が 王寺町指定文化財になりました。

名称・員数 D51形蒸気機関車895号機 1両  
附 D51895ナンバープレート 4枚  
種別 有形文化財（歴史資料）  
年代 昭和19年（1944）  
制作 日立製作所  
寸法・重量 長さ19.5m 幅2.936m 高さ3.98m  
動輪直径1.4m 重量125t  
品質・形状 1D1形テンダ式  
所在地 奈良県北葛城郡王寺町舟戸一丁目3973-1  
保管施設 舟戸児童公園  
（ナンバープレートは王寺町施設にて保管）  
所有者 西日本旅客鉄道株式会社  
管理者 王寺町  
指定年月 令和6年（2024）3月18日



▲D51895ナンバープレート

D51形蒸気機関車895号機は、D51形として895番目に製造されたもので、昭和19年（1944）5月10日に日立製作所が製造しました。

D51形蒸気機関車とは、D50形に続く大型貨物機関車として昭和11年（1936）に開発され、その後約10年間で、各形式のなかで最も多い1115両が製造されました。軸配置は先台車1軸、動輪4軸、従台車1軸の1D1形と呼ばれるもので、石炭庫と水槽を備えた炭水車を後ろにつなぐテンダ式です。

895号機は製造後、柳井機関区（山口県）、岩国機関区（山口県）、広島第二機関区（広島県）、津和野機関区（島根県）、鳥取機関区（鳥取県）、福知山機関区（京都府）と転属し、昭和46年（1971）4月5日から奈良運転所に配置されました。

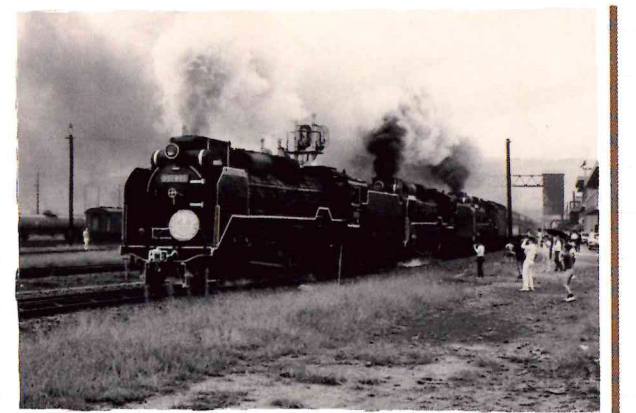
895号機の特徴といえるのが、罐（ボイラー）上の集煙装置と重油併燃装置です。集煙装置は昭和29年（1954）に、重油併燃装置は同31年（1956）に、ともに後藤工場（鳥取県）で取り付けられました。

集煙装置は、トンネル内で煙が運転席に入り込まないように後方に排出させるもので、通常は同装置の蓋を開けて煙を上方に排出しますが、トンネルに入る際に空気シリンダで蓋を閉めて後方に誘導します。重油併燃装置は、走力を高めるのに火室内に重油を噴射し、効率よく燃焼させて蒸気圧を安定して上げます。ともに後付けされたものなので、集煙装置は従来の煙突に箱を被せるように設置し、蓋の開閉シリンダは、本来は砂箱の管理に使用する踏み板の上に

設置しています。重油併燃装置では、焚口戸に穴を開けてパーナーを入れ、噴射させるのに用いる蒸気は蒸気分配箱の側面に新たにバルブを取り付け、重油タンクは罐上の蒸気溜を覆うドームカバーを一部切り欠いて、ボイラー安全弁との間に置きました。

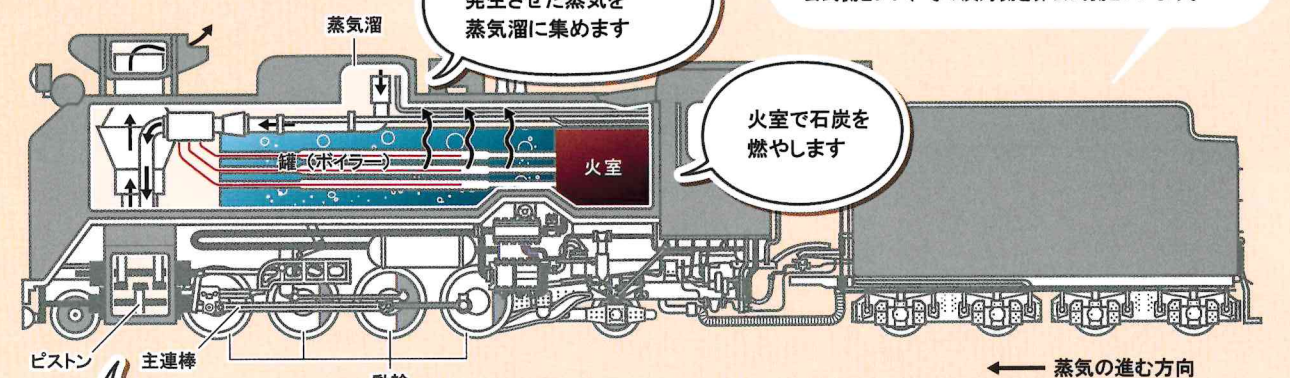
奈良運転所配属中に走っていた関西本線には、山線と呼ばれる難所の加太越えがあり、集煙装置と重油併燃装置が役立ちました。これらの装備があることで、機関士らが煙で一酸化炭素中毒になる恐れや、カマ（ボイラー）の調子を最大限に整えなければならない機関助士の心身負担が軽減されたのです。

集煙装置や重油併燃装置は、静態保存される際に取り外されることが多いなか、895号機には関西本線を走行したときのまま良好に保存されています。



▲昭和46年（1971）9月26日、イベント列車JC赤トンボ号として三重連の先頭に立って王寺駅を走るD51形蒸気機関車895号機

## 蒸気機関車の仕組み



蒸気圧でピストンを往復させて主連棒を動かし、動輪が回転することで走行します

蒸気機関車は、火室で石炭を燃やして燃焼ガスを起こし、罐内の水を熱して蒸気を発生させ、蒸気圧によるピストンの往復の回転に変えて走行します。

発生させた蒸気は、動輪回転の他にも炭水車から罐内に入れる水の温度をあらかじめ上げる給水温め器、前照灯や運転席の室内灯などに供給する発電機、ブレーキ作動や動輪の空転を防ぐ砂まきなどに用いる空気圧縮機、客車の暖房など幅広く利用されます。



D51形蒸気機関車895号機は、昭和47年(1972)11月7日に廃車となり、翌48年からこれまで半世紀にわたって、現在の場所に保存されてきました。

給水温め器、給油装置などの機械類をはじめ、動輪やメインロッド(主連棒)、ブレーキなどの走行装置、炭水車に外観上の目立った破損・欠損は認められませんが、前照灯・標識灯のカバーガラスやタブレットキャッチャーなど小型部品がやや多く欠損します。

運転席内では、速度計・圧力計・罐内水面計のカバーガラス、窓、腰掛などに破損・欠損は認められる一方で、蒸気分配箱の各バルブ(弁)、加減弁テコハンドル、逆転機ハンドル、砂まき作用コックなどは今も動かすことができ、良好な状態といえます。

また、公式側シリンダの蒸気室空気弁などに「D51895」、公式側・非公式側サイドロッド(連結棒)などの各部品に長

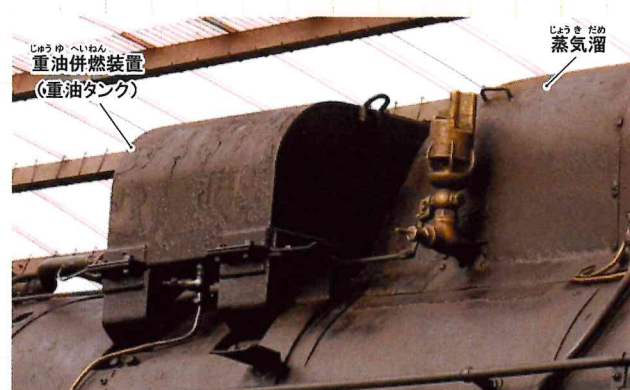
野工場(長野県)を示す「NN」や鷹取工場(兵庫県)を示す「TT」、後藤工場(鳥取県)を示す「GT」といった刻銘があり、部品のナンバリングや車両整備の履歴がうかがえます。

ナンバープレートのオリジナルは、王寺町役場の金庫内で保管されてきたこともあって、前後左右の4枚とも良好に残っています。赤く塗られているのは、奈良運転所に配置されていたためです。

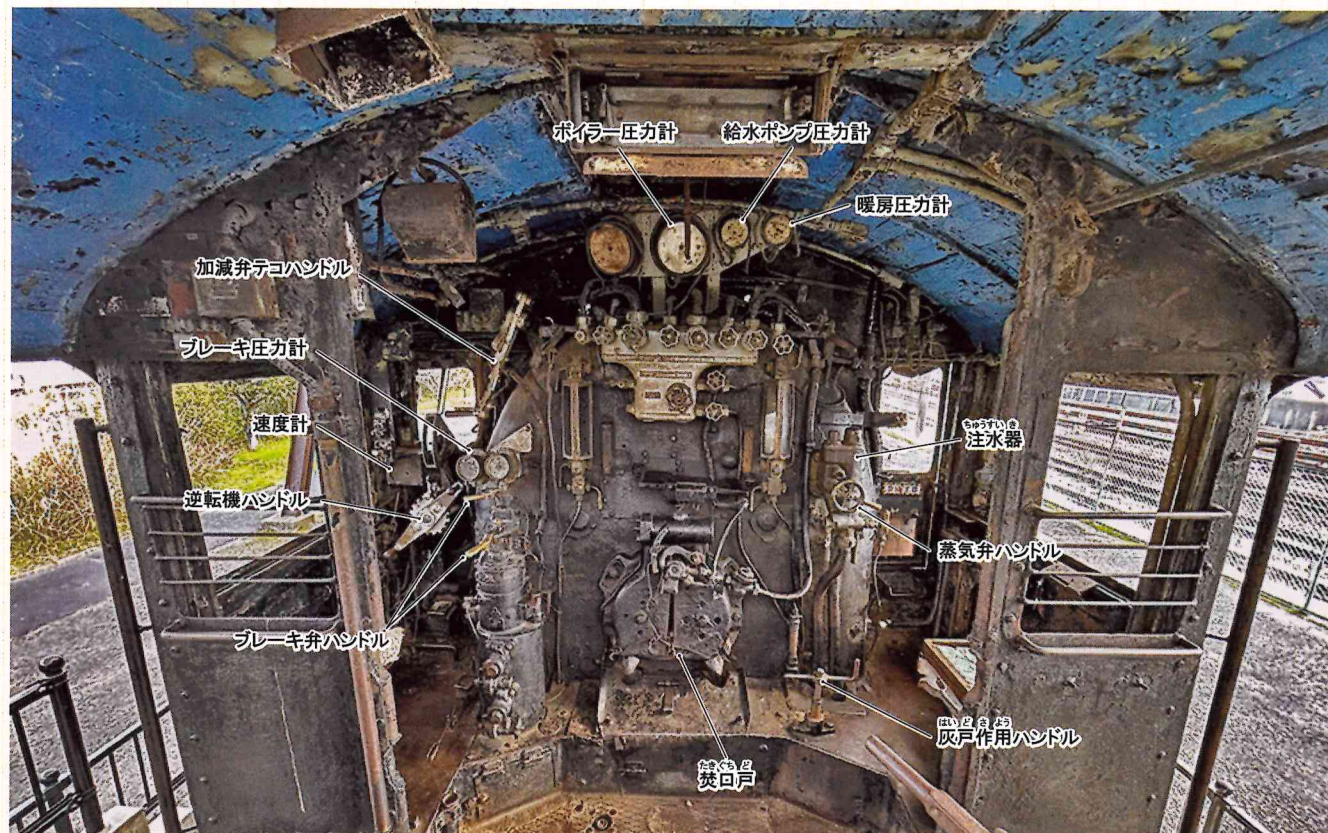
D51形蒸気機関車895号機は、実際に王寺駅を含む関西本線を走行した車両で、関西本線を走行するのに役立った装備を残したまま保存される貴重な文化財です。895号機をつじて、王寺町が王寺駅の開業を契機に、「鉄道のまち」として大きく発展したこと、明治時代から続いた蒸気機関車の鉄道文化があったことを永く伝えたいと思います。



▲集煙装置と開閉シリンダ  
トンネル内では集煙装置の蓋を空気シリンダで閉めて煙を後方へ逃がします。



▲重油併燃装置の重油タンク  
噴射してカマの燃焼効率を高める重油を積んでいます。



▲運転席内 自由に見学ができ、当時の機関士や機関助手の動きを間近に感じることができます。

## 王寺駅からD51形蒸気機関車895号機までの歩き方

現地に駐車場はありません。

### 赤ルート：王寺駅北口広場～王寺跨線橋～舟戸児童公園

- ▲王寺駅北口広場を東にまっすぐ進むと、国道25号の交差点につきあたります。
- ▲国道25号の交差点を東に渡って、南に進むと王寺跨線橋です。
- ▲王寺跨線橋には「舟戸児童公園」の標識があります。標識どおりに進むと階段があり、おりると舟戸児童公園に着きます。

### 緑ルート：近鉄新王寺駅～アンダーパス～舟戸児童公園

- ▲近鉄新王寺駅から線路に沿って、約600mまっすぐ進みます。
- ▲王寺跨線橋の下も通り過ぎます。
- ▲「舟戸児童公園」の標識を南に曲がるとアンダーパスがあります。ぐり抜けると舟戸児童公園に着きます。

